

知的障害者の舞台芸術活動とその支援

日時 2020年12月19日(土)10:00~17:00

参加費 無料

参加申し込みは次のフォームからお願いします。

<https://forms.gle/Z5tdNKS2iodtcnws5> →QRコード



2018年に障害者文化芸術活動推進法が制定されるなど、障害者の文化芸術活動への注目度が高まっています。実際に障害者が表現者となったさまざまな文化芸術活動が展開しており、日本と同様の法律の制定に向けた運動も生まれています。

今回のシンポジウムでは、こうした動きを背景に、知的障害者が舞台芸術活動の主体となることの意義について、知的障害者にとっての意義、社会的なインパクト、知的障害者と社会の関係変革の3点から迫る。その上で、知的障害者の舞台芸術活動を推進していく上で実践的・理論的課題を追究します。

10:00~12:00

韓国と日本の事例紹介

13:00~17:00

シンポジウム

- ・午前の部の意見交換
- ・社会変革の実践としての文化芸術活動
- ・実践的・理論的課題

登壇者

キム・ジェウン(劇団ラハブ)
吉原 廣(いちぶんネット)
岡部 太郎(たんぼぼの家)
禹 周亨(韓国ナザレ大学・法学)
山岸 淳子(日本フィルハーモニー交響楽団)
森田かずよ(女優・ダンサー)
佐藤 知子(神戸大学附属特別支援学校)
稲原 美苗(神戸大学人間発達環境学研究科)
大田美佐子(神戸大学人間発達環境学研究科)

劇団ラハブ

韓国ナザレ大学の知的障害学生の課外活動として発足。保護者の尽力のもと、幅広い舞台芸術家がボランティアとして協力し脚光を浴びる。平昌オリンピック・パラリンピックの文化祭典での公演など、継続的な活動を展開。

いちぶんネット

千葉県市川市を中心に、舞台芸術を中心とした創造と交流活動を実施。障害のある人もない人も一緒になって作るチャレンジド・ミュージカルに展開。

森田 かずよ

義足の女優・ダンサーとしてフリーランスとして活動中。文化庁の障害者文化芸術活動推進政策にも関与。

禹 周亨

障害学生・卒業生支援に取り組む、韓国の障害者法制のオピニオンリーダー。

山岸 淳子

日本フィルマネジメント・スタッフとして「落合陽一×日本フィルプロジェクト」等を担当。著書『ドラッカーとオーケストラの組織論』(PHP新書)。

岡部 太郎

奈良県を本拠に、アートとケアの視点からアートプロジェクトを展開する一般財団法人「たんぼぼの家」常務理事。

主催 神戸大学大学院人間発達環境学研究科ヒューマン・コミュニティ創成研究センター
(担当:津田英二 zda@kobe-u.ac.jp TEL078-803-7972 FAX078-803-7971)

共催 劇団ラハブ